

■ご挨拶

風力発電の本格的な導入実現のために

日本風力発電協会 専務理事 中村 成人



1. はじめに

今年度も引き続き当協会の専務理事を務めさせて頂くことになりました。会員並びに関係各位のご指導とご支援を改めてお願い申し上げます。

さて、8月から日本のエネルギー政策の基本となる「エネルギー基本計画」を検討する審議会が始まりました。この検討結果を受けて、来年には現行のエネルギーミックス(電源構成)の検討も行われる予定です。

2. 風力発電の市民権獲得を目指して

一昨年7月に取りまとめられた現行のエネルギーミックスでは、2030年時点における風力発電を始めとする再生可能エネルギーは日本の総発電電力量の22~24%を占めるとされ、初めて我が国の中核的電源の一つに位置付けられました。しかしながら、風力発電は概ね1.7%という低い見通しとされ、残念ながら未だ「市民権」を得たと言える状況には至っていません。

こうした状況を受けて当協会では昨年2月に、JWPA Wind Vision を策定・発表しました。その中で大きな課題として下記の3点を示し、今年5月の総会後の成果発表会でもご報告した通り、地道な取り組みを続けてきました。

- ①経済的に自立した電源への進化
- ②系統と調和した風力発電
- ③高信頼性の実現と雇用創出への貢献

加えて関係省庁が開催する各種の審議会でも積極的に意見・提案をするとともに風力関連諸団体が開催するシンポジウムなどにも積極的に参加し、活動状況を表してきました。

しかしながらエネルギー問題は優れて社会全体の課題であり、広く一般の市民の皆様への理解と支援を得ることなくして、本当の意味で風力発電が信頼される電源として市民権を獲得し本格的な導入の拡大を実現することはむずかしいとも感じています

3. 関連諸団体との連携・広報活動の強化

今後とも各種の審議会での積極的な発言、関係各省庁などへの提案・要望の提出を継続し強化することは当然です。

一方で、風力発電推進市町村全国協議会、(一社)日本風力エネルギー学会などを始めとする関連諸団体との連携を一層密なものとし、ご指導とご支援を仰ぎながら、ともに多くの方々に風力発電の魅力と効用を訴えることにも、今まで以上に力を注ぎたいと考えています。

例えば当協会では毎年、全国の自治体、学校、団体や会員企業の協力を得て、「グローバルウィンドデー」を全国各地で開催し、地域住民の皆様や子供たちに風力発電に関する理解を深めて貰う取り組みを続けています。ウィンドデーも今年で10年目を迎え、益々盛況です。

《三重大学での Global Wind Day》



一見遠回りのようにも見えますが、今後ともこのような直接一般の市民の皆様や子供たちと語り合う場と機会を増やし風力発電の理解者・応援団を一人でも増やすことで、風車が回っている風景がいわば日常の風景となることに繋げていけるよう、この方面での当協会の活動も強化していきたいと考えています。